

第3回みんなで文化交流の杜をつくる会 概要

1. 開会

2. 今日のワークショップの目的と進め方について

別紙により谷津教授が説明

3. ワークショップ作業(個別グループ)

第1テーマ：**施設の機能についてあるべき姿を考える** グループごとに以下のテーマを担当

A:図書館、B:ホール、C:子育て支援センター、D:市民が活用できるさまざまなスペース

- ①思い浮かんだキーワードや提案を各自付箋紙に記入
- ②付箋紙に記入した内容を口頭で説明しながら模造紙に貼付け
- ③関連する付箋紙を話し合いによりグループ化し、模造紙内に再配置

第2テーマ：**市民みんなの施設にするには何が必要かを考える**

- ④思い浮かんだキーワードや提案を各自付箋紙に記入
- ⑤付箋紙に記入した内容を口頭で説明しながら模造紙に貼付け
- ⑥関連する付箋紙を話し合いによりグループ化し、模造紙内に再配置
- ⑦付箋紙のグループや各付箋紙のうち共感できる意見に一人5枚のシールの持ち点で投票
- ⑧得点が多い順に意見の概要を簡潔に指定の用紙に記入
- ⑦プレゼンテーションの準備

4. ワークショップ作業(全体)

- ・模造紙がまとまったグループから会場正面の黒板に模造紙を掲示
- ・各グループの代表者が発表し、質疑応答
- ・第2テーマの共感できる意見に一人5枚のシールの持ち点で投票(傍聴者も)

発表内容

第1テーマ：**施設の機能についてあるべき姿**

A班：図書館

- ・開架(本棚)の幅や高さは障害者や車椅子に配慮したものを
- ・和綴じなど貴重本を保管する空調完備の小さな部屋が必要
- ・子供たちが賑やかにしてもその音がほかに漏れない(閲覧している人には聞こえない)ようにすべき
- ・子育て世代の人との交流が児童図書を媒介に出来るのでは
- ・図書館の床面積は基本計画では1,700 m²に満たないが、2,000 m²ぐらいは欲しい
- ・本を読むときに暗くないように採光を良く考えて欲しい
- ・学生がゆっくり学習するスペースが欲しい
- ・司書の有資格者が3人以上必要
- ・司書以外の臨時職員は1年交代では経験が蓄積されないなので、継続して採用出来るように
- ・開館時間は朝は少々遅くてもいいが、勤めている人も利用出来るように夜7時、出来れば8時まで
- ・無償ボランティアは最初がいいが、継続が大変なので有償であれば長続きし責任感も持てる

B班：ホール

- ・ 700席がなければイベントの誘致が出来ないが、フルに利用されるのは年数回

⇒いま現在の活動でも満席になる機会はもっと多いはず

- ・ 利用率が上がるように座席を固定席にせずに移動出来るものに

⇒可動式はどうも椅子に難があるように思う→由利本荘市では固定式に遜色の無い椅子を導入した

- ・ 中央に相撲の土俵やリングを設置出来るように

⇒スポーツセンターで良いのでは？

- ・ 座席は背もたれのあるものを
- ・ 市内には映画館が無いので3D映画も上映できる設備を
- ・ 音響、照明設備は充実したものを
- ・ 舞台装置の収納装置はしっかりしたものを
- ・ 男子トイレにもオムツ交換台を
- ・ ホールをウォールカーテンで仕切り半分に仕切り別々に利用出来るように
- ・ ボランティアを募って運営する方法もある
- ・ 内装は飾りを入れずにシンプルに
- ・ 客席を扇型でどの席からでも見やすいように
- ・ 車椅子席の配慮を
- ・ 館内の飲食についてはしっかりしたルールを

C班：子育て支援施設

- ・ 現在の子育て支援センターは、児童センター、児童クラブ、ファミリーサポートセンターの4つの機能があり構造上ものすごく手狭になっている
- ・ 鹿角市の目玉の施設として子育て世代も集える施設になるためにはその拠点が施設の中にあった方が良い
- ・ ホールのイベント時、図書館で静かに本を読みたい時にファミリーサポートセンターでお子さんを預かって親がゆっくり出来ることは大切
- ・ 子育て支援センターに来るお子さんは0歳から3歳ぐらいまでで、必ず保護者が付き添って連れて来ており、他の施設がうるさくなることは無いと思う
- ・ ファミリーサポートセンターで認可保育園の休日保育を引き受けており、手狭になっている
- ・ 児童センターが中途半端な大きさのために子育て支援センターとファミリーサポートセンターが移転しなければならないので、部屋数や広さ、トイレなどの設備は子育て世代に適応出来る相応のつくりをしなければならない
- ・ いろんな人の意見を聞くことも大切だが、いま従事している職員が集まって意見を交わす機会を持った方が良い
- ・ 複合施設はそれぞれの施設がどう上手くやっていくかが大切で、早い段階から管理者は誰がどのようにやるのか考えていかなければならない
- ・ 子育て支援センターにもう1部屋追加して欲しい

⇒具体的にはどういう部屋が必要か？→育児サークルの活動や将来的な病児保育のために1部屋欲しい

⇒プレイルームなどのスペースから分けることは可能か？→部屋の大きさは広く無くても構わないので、プレイルームは減らさないでいただきたい

- ・ 駐車場からの利便性を良くして欲しい
- ・ 職員のスペースと子供たちが遊ぶところはきちんと間仕切りして欲しい
- ・ 相談の機能もあるので、内容が漏れないように遮音に配慮して欲しい
- ・ 施設の共有設備はそれぞれの施設が利用出来るようにしっかりしたルールを作って欲しい

D班：市民が活用できるさまざまなスペース

- ・ 無理に交流を前提とせずに、来た人達の中に自然に交流が生まれることを目指す
- ・ 訪れやすく、居心地が良い施設
- ・ 吹き抜け、スロープ状の回廊など明るくて開放的なスペース
- ・ 屋外は中庭や散歩が出来るコース
- ・ 屋内の壁にレリーフを埋め込む、壁を活用してロッククライミングが出来るようにする
- ・ 子供が裸足で遊べる柔らかい床のスペース、収納が出来る大型室内遊具
- ・ 子供達が携帯ゲームを遊ぶスペース
- ・ フリーマーケット、仮設のミニ舞台で発表出来るイベントスペース
- ・ ギャラリーは市の收藏品、市民の作品、子供の作品の展示を
- ・ 朝から夜遅くまで使え、待ち合わせが出来るスペース
- ・ 図書館の新聞を配置し、閲覧用ベンチを設置
- ・ 施設全体の総合案内、観光案内の設置
- ・ 市内施設、各市民センターを紹介する掲示板やコーナーの設置
- ・ チャレンジショップ、カフェの設置

第2テーマ：重要と思うキーワード

A班

- ・ 企画スタッフ(プロデュースする人、人材を得ること)
- ・ 市民参加(設計段階から市民が参加出来ること)
- ・ 郷土色(鹿角は民話、伝説が多いので物語性があるものを)
- ・ 交通の利便性
- ・ 旧町村意識の解消(施設を活用することで解消するように)
- ・ 予算のバランス(この施設が出来たことにより他の施設の予算が減らされるのは逆効果)

B班

- ・ 新しい施設のにぎわいを周囲に波及させる(施設には人が沢山来るので、図書館カードでの割引など地元商店街や企業にも賑わいを出せる仕掛けを)
- ・ 各地区の伝統芸能を広場でやってアピール(発表する場が少ないので継続してやりたい)
- ・ 全市民の意見を募る『1行メッセージ』(市民全員から意見を募る)

C班

- ・ AMPMのような利用時間(6:00～22:00 朝早くから夜遅くまで多様な利用に対応することでいろんな地域の人が利用出来るようになる)
- ・ 定期循環バスの運行

- ・コミュニティラジオ局開設(施設などの様々なイベント情報を伝える)
- ・ネットカフェ的ネットルーム(来街者や市民のネットの接続率が低いため有料でネット環境を提供)
- ・運営と市全体の活動(いろんな地域で行われていることをこの施設で行う)

D班

- ・各地域との合同イベント
- ・交通面の改善(循環バス、施設を利用した子供は無料にしたり片道分をサービス)
- ・図書館機能の充実(市民からの本の寄附を受付し、他の施設に市民文庫を設置)

5. まとめ

谷津教授

今日は長時間ありがとうございました。再来週の4回目は最後ですが運営という一番難しいテーマにチャレンジしていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。今日の結果はいつものようにわかりやすくまとめてお示ししたい。長時間ありがとうございました。

6. 連絡事項

- ・次回11月28日は市役所の会議室が会場。入場は西側からお願いしたい。
- ・前回もお伝えしたが、ワークショップの内容については市のホームページで公開している。写真の掲載に問題がある方は申し出てください。なお、参加者の氏名も公表したいと考えているので、公開に問題がある方は配慮するので申し出て欲しい。

7. 閉会